

## 障害者虐待、施設で増加

### 調査開始以来最多に

厚生労働省は3月29日、2020年度に都道府県・市町村が対応した障害者虐待の状況を発表した。障害者福祉施設職員による虐待として通報されたのは2865件で、そのうち自治体が虐待と認め

たのは632件。被害者は890人だった。いずれも12年度の調査開始以来最も多い。被害者が800人を超えたのは初めて。死亡した人も1人

(40代男性、精神障害)いた。過去4年間は被害者が600〜700人台で推移していた。1件当たりの被害者数は年々下がる傾向にあったが、20年度は過去2年間よりも上がった。被害者890人の内訳は、性別では男性が6割、障害種別では知的障害が7割だった。

虐待と認められた632件を事業所の種別で見ると、障害者支援施設(入所)、グループホームがそれぞれ2割を占める。都道府県が立ち入り検査や改善勧告など、法律に規定された権限を行使したのは632件のうち185件にとどまった。

市町村職員が判断した虐待の発生要因としては「知識・技術の問題」(71%)が最も多く、「職員のストレスや感情コントロールの問題」(56・8%)が次に多かった。

家族による虐待は通報が6556件、認定されたのが1768件。いずれも過去最多だった。厚労省は新型コロナウイルスが施設や家庭内での虐待に与えた影響について「いろいろ想定はできるが断定はできない」としている。(福田敏克)